

# じいじとばあばとぼく

岡山県 就実小学校 五年

東郷 福太郎

ぼくの妹が一年生になった時、お母さんが障がい者の作業所に復職した。ぼくは二年生だった。それからは、日曜日や祝日以外は毎日、おじいちゃんの家で過ごす事になった。

おじいちゃんの家では、新しい経験と発見がいっぱいある。おじいちゃんとの山遊び、その中でもパンプーハウスを作って、火おこしから学び、焼き肉をした事は、最高だった。タケノコ掘りも、今ではぼくの方がおじいちゃんよりも上手になった。皮ごと焼いてしょう油がジューと鳴く音と香りは最高だ。おばあちゃんは花育ての名人で南国しか育たないバナナやパイナップルを上手に育ててぼくたちに研究させる。庭いっぱいのお花の手伝いも楽しい。おじいちゃんは、昔はのど自分の子供の頃の話をし、ぼくたちに押しつけてくる。すると、すかさずおばあちゃんの助け舟が出る。

「昔は昔じゃあ、今は今。ほんならおじいちゃん、パソコンできるか？」と言うと

「申し訳ありませんでした。ヘッヘッ。」と笑う。ぼくは、おじいちゃんとおばあちゃんの

「昔と今。時代は変わった。生活も変わった。しかし、心が変わっちゃおえん。全ての人に感謝を忘れちゃいけない。」この言葉が大好きだ。

おじいちゃん家が楽しい事ばかりではない。ノートに落書きをしたり、チャラ字で書くそれはそれは、鬼ばあいに変身する。「正座！」と言われたら地獄だ。長い説教が始まる。他事を考えながら正座をしているぼくは、見抜かれる事がある。

去年の夏休みと今年を比べると、おばあちゃんが

「ちよつと疲れたから横になるね。」と言う事が多くなった。ぼくと妹の漢検の字も見えにくくなっている。おじいちゃんをよく、昼寝をするようになった。そんなおじいちゃんは73才、おばあちゃんは74才。いつも参観日やこん談に来られるおばあちゃんを当たり前のように思っていた。中庄駅や塾の送り迎えをしてくれるおじいちゃんも当たり前と思っていた。しかし、当たり前ではないんだ。去年と今年のおじいちゃんとおばあちゃんの二人の違いがぼくには、はっきりと分かった。おじいちゃんとおばあちゃんの口ぐせ、

「ありがとう、ごめんなさい、人の役に立つ人間になれ！」おじいちゃん、おばあちゃん、ぼくは、先生、両親、全ての人に感謝できる人になるよ。しっかり勉強して、おばあちゃん目の代わりになるよ。いつも迷惑かけているけど心の中いつも言っているよ。

「ありがとう。」